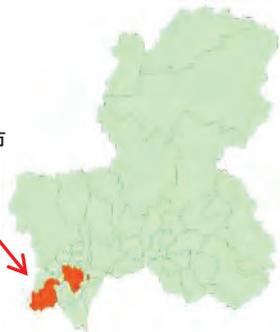


岐阜県大垣市



取組概要

- 交流人口の獲得から、二拠点居住や通い里など、この地域とともに歩む仲間人口の獲得を目指し、この活動を通じて、地域の将来を支える強くてしなやかな体制構築を目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

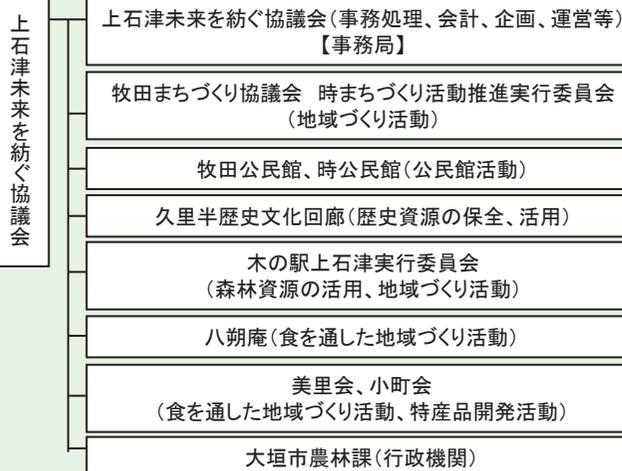


地区の現状・課題

人口減少と高齢化が進み、耕作放棄地が増加しており、以下の課題解決が求められている状況

- 職、住まい、余暇など幅広い分野において、都市部への傾斜・流出
- 農業従事者の高齢化や担い手不足

体制図



課題に対する主な取組

疑似体験プログラム

- 「この地で週末を過ごす」をテーマに疑似体験プログラムを開発



- 地域との関わり度合の異なる11プログラム実施
- 申し込みの体制整備

情報発信の強化、継続

- ICTによる情報発信
- 絵てがみなどアナログ発信



- Webサイトの開設及びSNSによる情報発信体制を整備
- 地域にゆかりのある人への情報発信

交流人口獲得の効率化

- 観光業者との連携プログラム
- 学校連携プログラム



- 観光業者との連携を通じて、地域に見合ったプログラム開発につながった
- 高校の合宿での交流や大学との連携交流

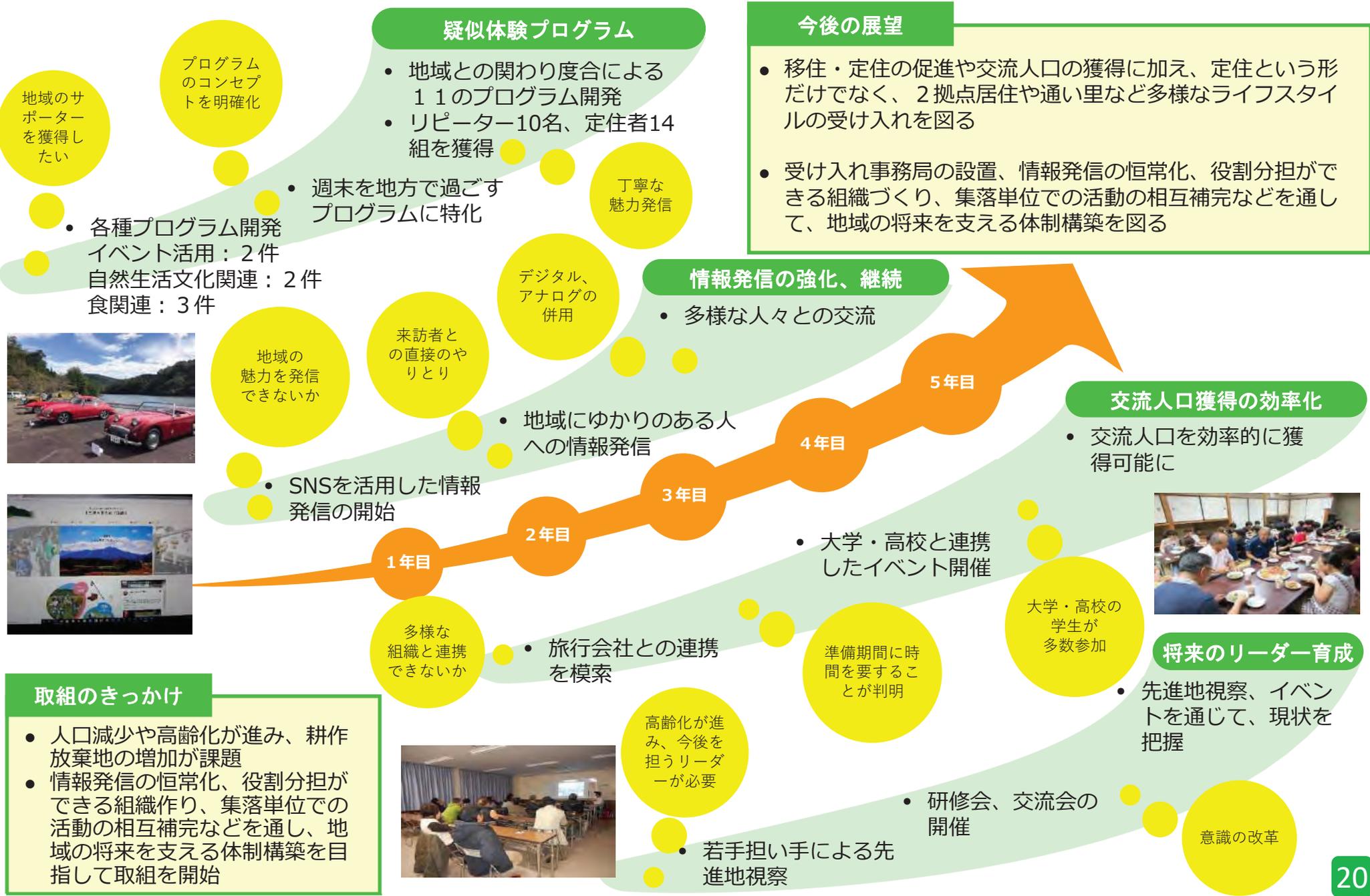
将来のリーダー育成

- 若者や子育て世代が主となる実行委員会の確立とイベント開催



- リーダー育成研修会等により、地域を牽引するリーダーが5名育成された

10 【取組のプロセス】





取組概要

- 多様な組織とネットワークを結び、地域の新たな担い手となる人材を育てながら集落営農組織の充実を図ることを目指している。
- 多様な団体とのコラボレーションによる特産品生産を行い、将来的に地域の雇用創出につなげることを目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

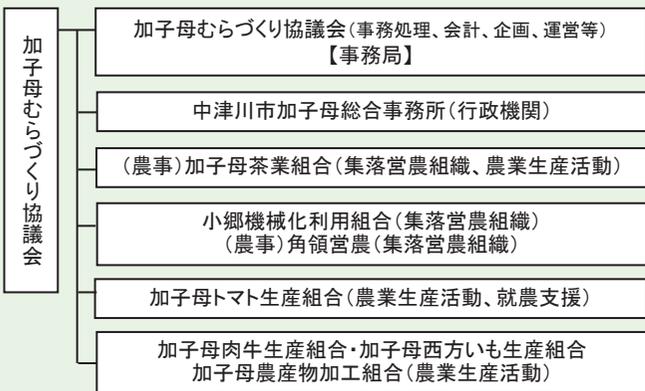


地区の現状・課題

農業従事者や集落営農の高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 農業に従事する後継者の確保
- 若者の流出を防ぐためにも、新たな仕事の創設、担い手確保が必要
- 高齢農家も安心して暮らせるネットワーク構築が地域の重要な課題

体制図



課題に対する主な取組

地域コーディネーターの配置

- 地域づくりの支援をする人材を外部より受け入れ



- 地域コーディネーターが任期満了後移住
- 外部の若者と地域のつなぎ役として活躍

地域資源の有効活用

- 地域資源を活かすための加工施設を整備
- 農村舞台「明治座」を活用したイベント開催
- 生産意欲を高めるための取組



- 地元農産品の新たな販路の開拓
- 観光と連携した取組を開始
- 軽トラ市が地域住民の生きがいの創出や所得向上に貢献

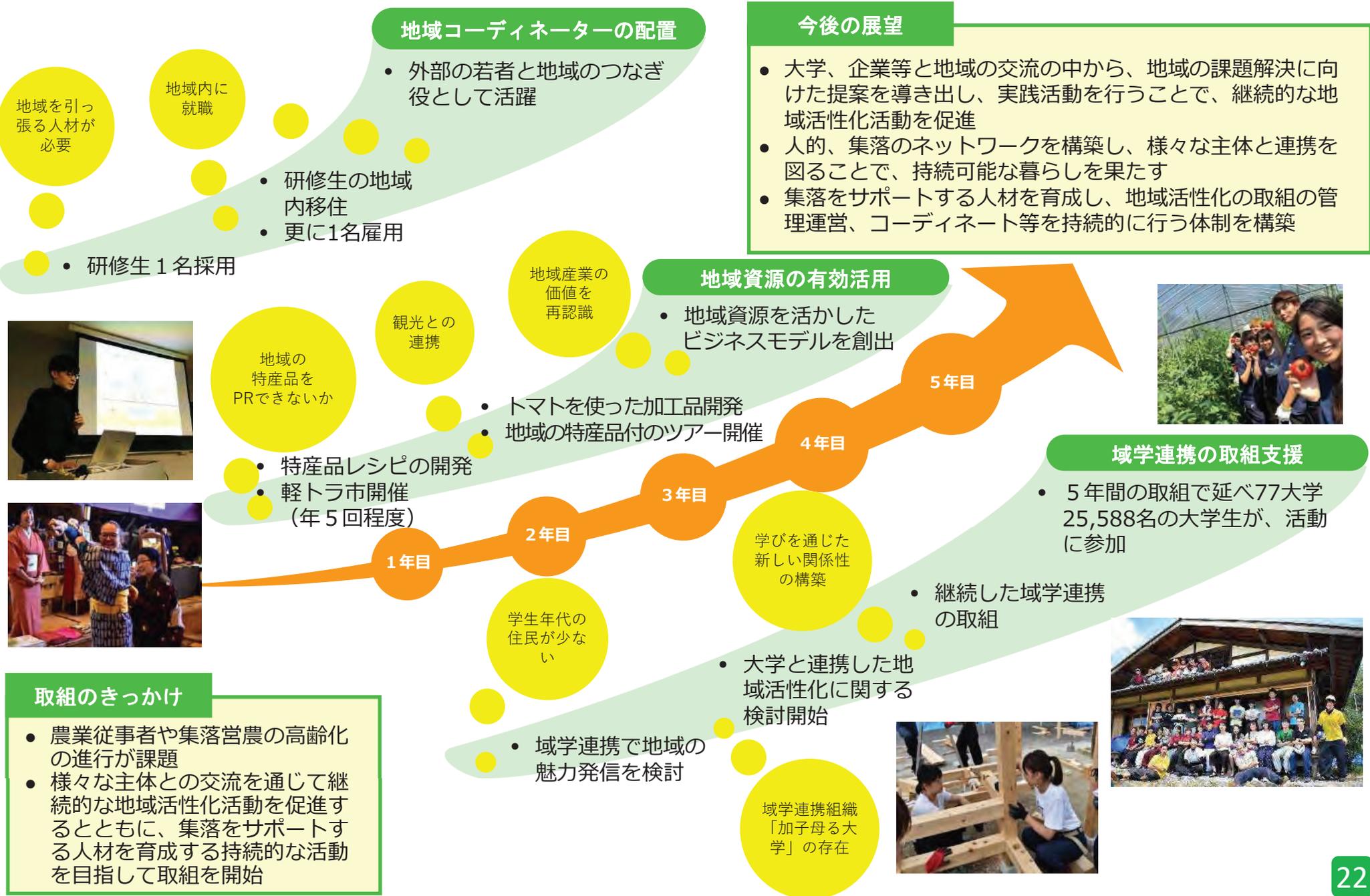
域学連携の取組支援

- 集落活性化をテーマとした各種検討への支援
- 空き家改修のワークショップを開催
- 地元中学生と連携した地域づくりのワークショップ開催



- 5年間の取組で延べ77大学25,588名の大学生が活動に参加
- 持続的に地域を支えていくため関係人口を増やすための体制を構築

11 【取組のプロセス】





滋賀県米原市

取組概要

● 過疎化・少子高齢化が進んでいる東草野地域において、移住者を増やして農林業を生活基盤とする安定した地域経営を成り立たせ、「うるおいとやすらぎあふれるエネルギーフリーの自立循環型コミュニティの実現」を目指している。



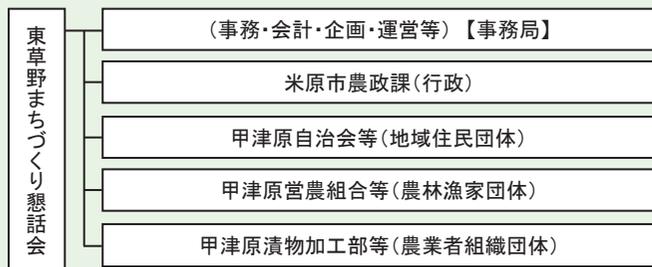
地域の将来像づくり（ワークショップ）

地区の現状・課題

人口減少と高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 少子高齢化による農業や生活機能の担い手不足
- 空き家の増加
- 鹿・猪・猿による深刻な獣害
- 利用・再利用可能な地域資源が手付かずのまま
- 女性や高齢者の活躍機会の不足
- 6次産業の不在
- 地域ブランドのPR不足
- ツアー等受け入れ体制の不備、拠点施設の不在
- 地元に対する誇りが薄れつつある

体制図



課題に対する主な取組

持続可能な6次産業の開発

- 自伐型林業の研修
- 地元産の加工品づくり、販売、飲食サービスの推進



- 自伐型林業の担い手が、意欲のある担い手を束ねる組織を設立
- 地元産材を用いた玩具等を試作・開発

コミュニティ機能の維持・改善

- 集落共同で、住民交流イベントを開催
- 地域の魅力を伝える、地域・世代間交流の検討
- 古民家を活用した取組



- 若い移住者が増加（17人うち子ども7人）
- 子どもが増えたことにより地域が活性化

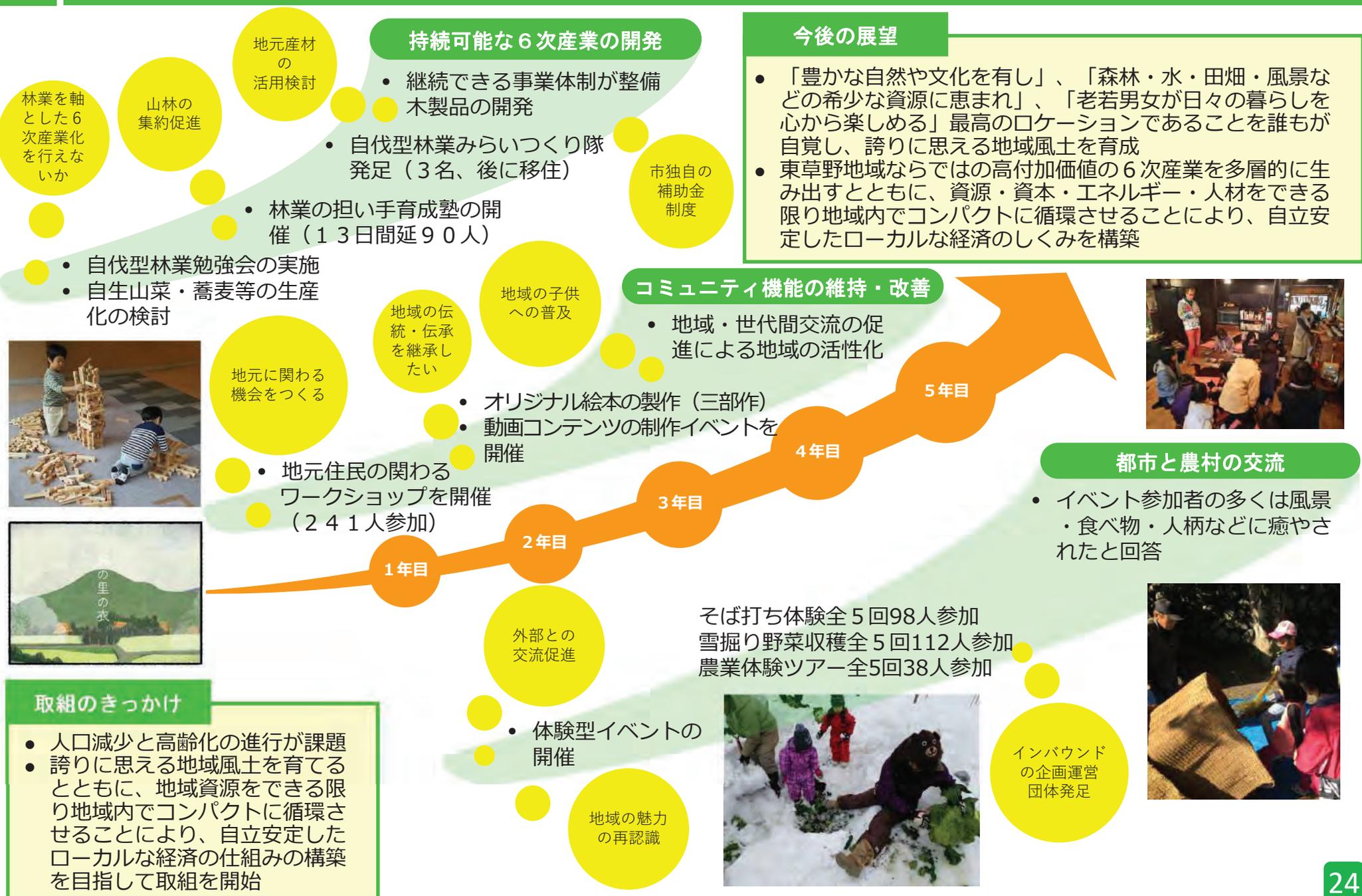
都市と農村の交流

- 体験観光ツアーイベントの開催
- 移住体験ツアーの開催



- 市内にインバウンドツアーの企画運営団体を設立し、都会の人と地域を結ぶ橋渡しの役割を担う

12 【取組のプロセス】



林業を軸とした6次産業化を行えないか

山林の集約促進

地元産材の活用検討

持続可能な6次産業の開発

- 継続できる事業体制が整備
- 木製品の開発
- 自伐型林業みらいづくり隊発足(3名、後に移住)

市独自の補助金制度

今後の展望

- 「豊かな自然や文化を有し」、「森林・水・田畑・風景などの希少な資源に恵まれ」、「老若男女が日々の暮らしを心から楽しめる」最高のロケーションであることを誰もが自覚し、誇りに思える地域風土を育成
- 東草野地域ならではの高付加価値の6次産業を多層的に生み出すとともに、資源・資本・エネルギー・人材をできる限り地域内でコンパクトに循環させることにより、自立安定したローカルな経済のしくみを構築

- 自伐型林業勉強会の実施
- 自生山菜・蕎麦等の生産化の検討



地元に関わる機会をつくる

地域の伝統・伝承を継承したい

地域の子供への普及

コミュニティ機能の維持・改善

- 地域・世代間交流の促進による地域の活性化



- 地元住民の関わるワークショップを開催(241人参加)

- オリジナル絵本の製作(三部作)
- 動画コンテンツの制作イベントを開催

都市と農村の交流

- イベント参加者の多くは風景・食べ物・人柄などに癒やされたと回答

取組のきっかけ

- 人口減少と高齢化の進行が課題
- 誇りに思える地域風土を育てるとともに、地域資源をできる限り地域内でコンパクトに循環させることにより、自立安定したローカルな経済の仕組みの構築を目指して取組を開始

外部との交流促進

そば打ち体験全5回98人参加
雪掘り野菜収穫全5回112人参加
農業体験ツアー全5回38人参加

- 体験型イベントの開催

地域の魅力の再認識



インバウンドの企画運営団体発足





京都府京丹後市

取組概要

● 人と人が結びつき、みんなで助け合い、協力し、支え合いながらみんなが輝き、地域の豊かな自然、歴史、文化、産業を継承発展し、豊かで元気でにぎやかな大宮南地域の創造を目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）



地区の現状・課題

人口減少と高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 新たな地域経済循環による雇用創出や安定した収入確保の仕組みの構築が急務
- 農家戸数の減少、高齢化による離農や耕作放棄、有害鳥獣による被害の深刻化
- 青年層人口の減少による伝統・文化・芸能の継承難

体制図



課題に対する主な取組

生き生きとした地域づくり

- 外部との観光交流を通じ、地域の活性化に資する活動を実施



- 旅行会社や関係機関との連携で交流人口が増加
- 地域の特産品開発

地域で支え合う安らぎの地域づくり

- 地域防災体制を強化し、地域住民の防災への意識強化を図る活動を実施



- 奥大野地区防災計画策定
- 災害時の業務継続体制の確立

地域の資源を活かした地域づくり

- 農業の担い手確保や農地の効率的活用、遊休農地の解消に向けた取組を実施



- 京力農場づくりプラン2地区策定
- 女性6人の農業法人設立
- 集落営農法人楽農くらがきの復活

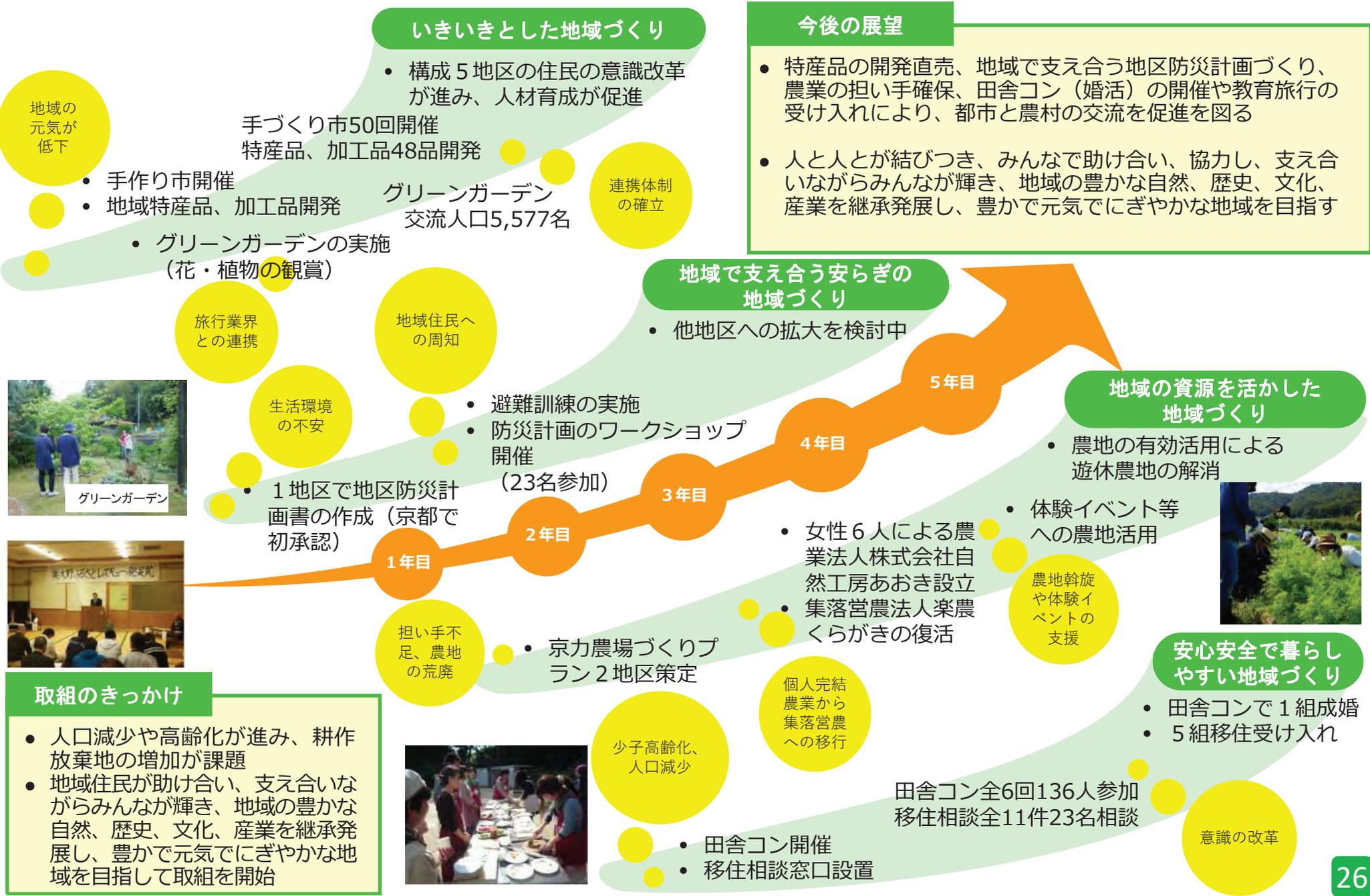
安心安全で暮らしやすい地域づくり

- 移住定住を推進する婚活イベント等を実施
- 大学と連携し、地区のPR活動を実施



- 婚活イベントでは1組が結婚につながった
- 5組の移住を獲得

13 【取組のプロセス】





取組概要

- 地元住民と外部人材のもつネットワークの知恵と技術を合わせながら周辺地域との連携をもとにした複合的な農村生活モデルの確立を目指している。
- 大学生や研究者・都市部企業等が地域づくりに参加し学び合う体制の構築を目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

地区の現状・課題

少子高齢化の進んでいる中山間地域であり、以下の課題解決が求められている状況

- 米価格の低迷により農業は苦戦
- 農業の不振が若者の就労の場を奪い、若者の流出が進行
- 高齢化、担い手不足に加え、獣害被害が重くのしかかり農地や農業技術をどのように継承し、守っていくかが課題

体制図



課題に対する主な取組

地域外住民との交流支援

- 地域の魅力を外部に発信すると共に、地域内外の交流を図るイベントを開催



- 新たなHPを立ち上げ（20,000アクセス超）
- 女性が参加しやすいイベントを開催し、交流人口が増加（800人）

6次産業化への取組支援

- 農産物の付加価値の向上、加工品の開発



- 地元産のなたね油「下心」を開発
- 「下心」を活用したレシピ本を作成

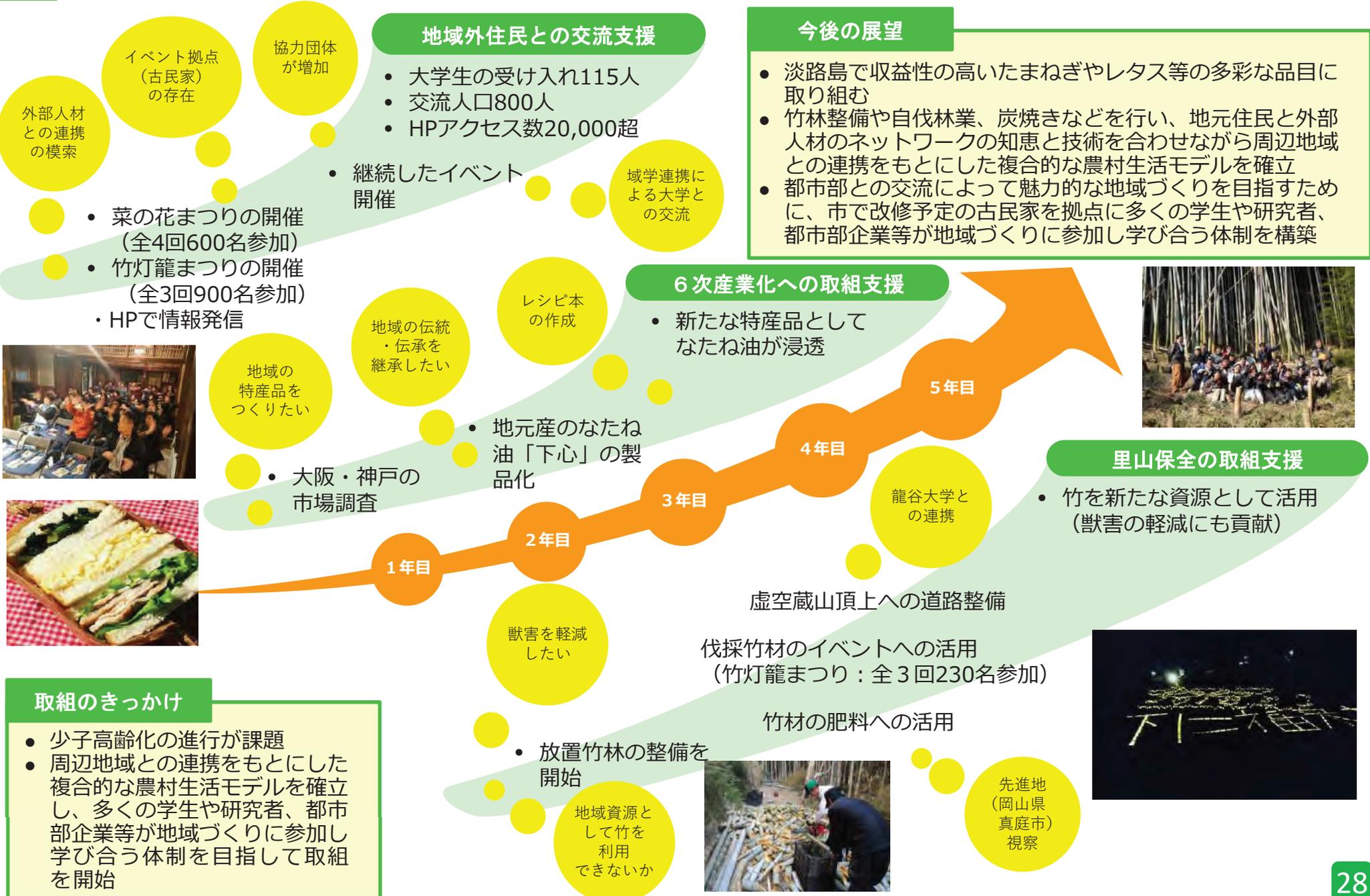
里山保全の取組支援

- 大学や地域外住民と連携して、放置竹林の整備を行い、獣害被害の軽減を図る
- 地域資源を活用したイベント開催等により地域外との交流を促進
- 竹資源を新たな地域資源にかえる取組を実施



- 虚空蔵山頂上への遊歩道の整備や公道の整備が完了
- 放置竹林の整備で発生した竹材を用いたイベント開催
- 竹粉を肥料に活用

14 【取組のプロセス】





岡山県真庭市

取組概要

● 生産から集荷、販売の拠点及び体制を整備し、野菜や山野草の集荷を各集落として取り組む上での合意形成がスムーズに行える地域体制づくりと地域の将来ビジョンの策定を行う。また、新たな集荷体制の確立と地元観光施設での地産地消の推進を図り、小さな経済循環システムの構築を目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

地区の現状・課題

人口減少と高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 耕作放棄地の増加や農業収入の減少
- 農業後継者の減少
- 少子化にも拍車がかかり、限界集落の増加が見込まれる

体制図



課題に対する主な取組

庭先野菜の集出荷・販売

- 庭先出荷体制を整備し、農業収入の増加を図る



取組の効果

- 庭先野菜の出荷体制を構築〔販売実績約250万円（H28～R1）〕

農産物加工品の開発

- 地元の農産物の加工品を開発し、雇用を創出することで、人口減少の軽減を図る



- 地元農産物を活用した加工品（餅、アロマオイル等8種類）を開発

地域内外の交流促進

- 地元農家と宿泊施設が連携し、農作業を体験するツアー等の交流イベントを開催
- 地域資源の活用と旅行業界との連携による地域活性化



- 農作業体験ツアーの開催（全3回52名参加）
- 森林活用型アスレチックパーク「冒険の森」開業

地域と小学校の連携

- 中和地区自主防災組織の設立
- 子どもの居場所づくり交流拠点「えがお商店」開設



- 学習支援や行事サポートの体制を整備
- 地域のつながりを強め、安心安全な暮らしを確保

15 【取組のプロセス】





広島県三次市

取組概要

- 新たな地域拠点「川西郷の駅」を核とした地域づくりに、女性や若者など幅広い住民層が積極的に参加し、地域での「生きがい」や「やりがい」が発掘でき、それぞれ住民にとって“田舎暮らしが楽しい里”を実感できる地域を目指している。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

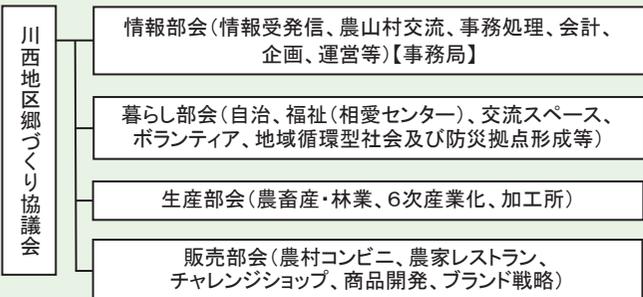


地区の現状・課題

人口減少と高齢化が進んでおり、以下の課題解決が求められている状況

- 高付加価値生産の仕組みと場づくり、地域拠点と農業、都市農村交流などを結んだ総合的地域コミュニティビジネスの構築や生活基盤等、定住条件の整備及び公共交通による移動手段の確保

体制図



課題に対する主な取組

農畜産物直売所

- 生活拠点郷の駅内に農産物直売所を設置し、農業所得の向上を図る



- 販売チャネルの増加により、農業所得が向上（郷の駅への出荷額は3年間で倍増）

農村コンビニ

- スーパーが撤退している現状を鑑み、新たな地域の買い物の場を設立



- ファミリーマートと連携し、郷の駅内にコンビニを設置

農家レストラン

- 生活拠点として位置づけた農家レストランのスタイル構築に向けた取組を実施



- 農家レストランの体制づくりが完了し、今後ハード面を整備することで、地域の生活拠点として期待

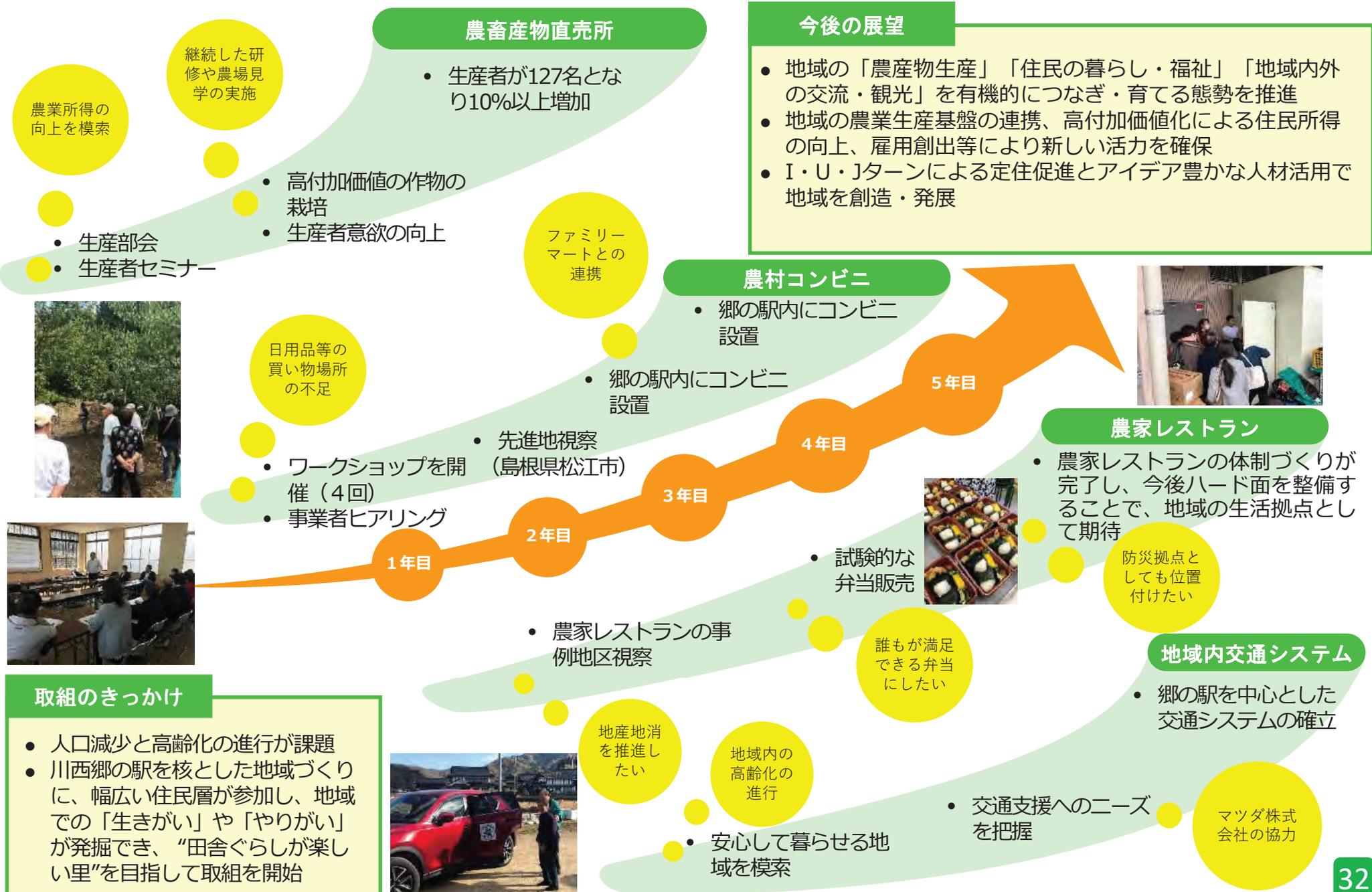
地域内交通システム

- 高齢者の安全・安心な暮らしを確保するための交通システムの導入



- 郷の駅を中心とした地域内で支えあう交通を確立し、地域の安心づくりに貢献

16 【取組のプロセス】





高知県本山町

取組概要

- 農業公社を核に複合経営拠点を確立し、拠点を中心とした経済活動の展開により、生産活動、人材の育成、生産者支援など経済活動の活性化を推進すると共に、拠点と各集落(モデル集落)の共同取り組みによる集落の活性化で持続可能な集落づくりに向けた仕組みの確立など、拠点を核とした中山間地農業・農村の確立を目指している。



地域の将来像づくり (ワークショップ)

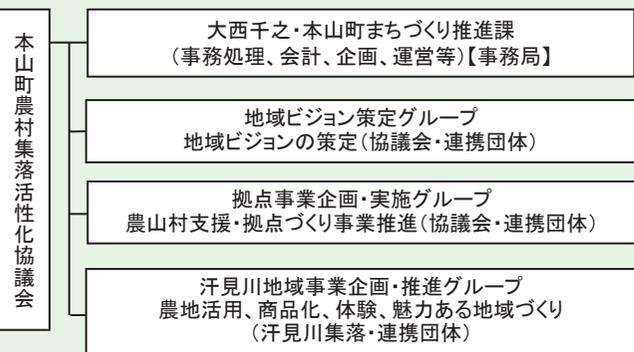


地区の現状・課題

若者の流出と高齢化が進行しており、また、地域の90%が森林で農地が棚田状のため経営基盤が脆弱であり、以下の課題解決が求められている状況

- 新規就農者の確保、オペレーターの育成など農地を守る取り組み
- 地域農産物で6次産業化の推進など、新たな農山村の活力づくりの拠点形成
- 拠点と各集落を結ぶ仕組みづくり

体制図



課題に対する主な取組

6次産業化推進

- 地元の農産物を使用した加工品の開発



- 土佐天空の郷（ブランド米）を核に、地域特性を活かした商品化（14種類）

農地活用・人材育成

- 専門家からの助言を受け、地域資源の活用方法を検討
- 農作業の担い手育成支援



- 農業公社等で後継者育成を実施し、新規就農者15名獲得

施設利用促進（交流人口の拡大）

- 拠点施設でのイベントや活動を活性化させ、外部との交流人口の拡大を図る



- 集落拠点に訪れた人にFBによる情報発信（1,000人超の関係人口）

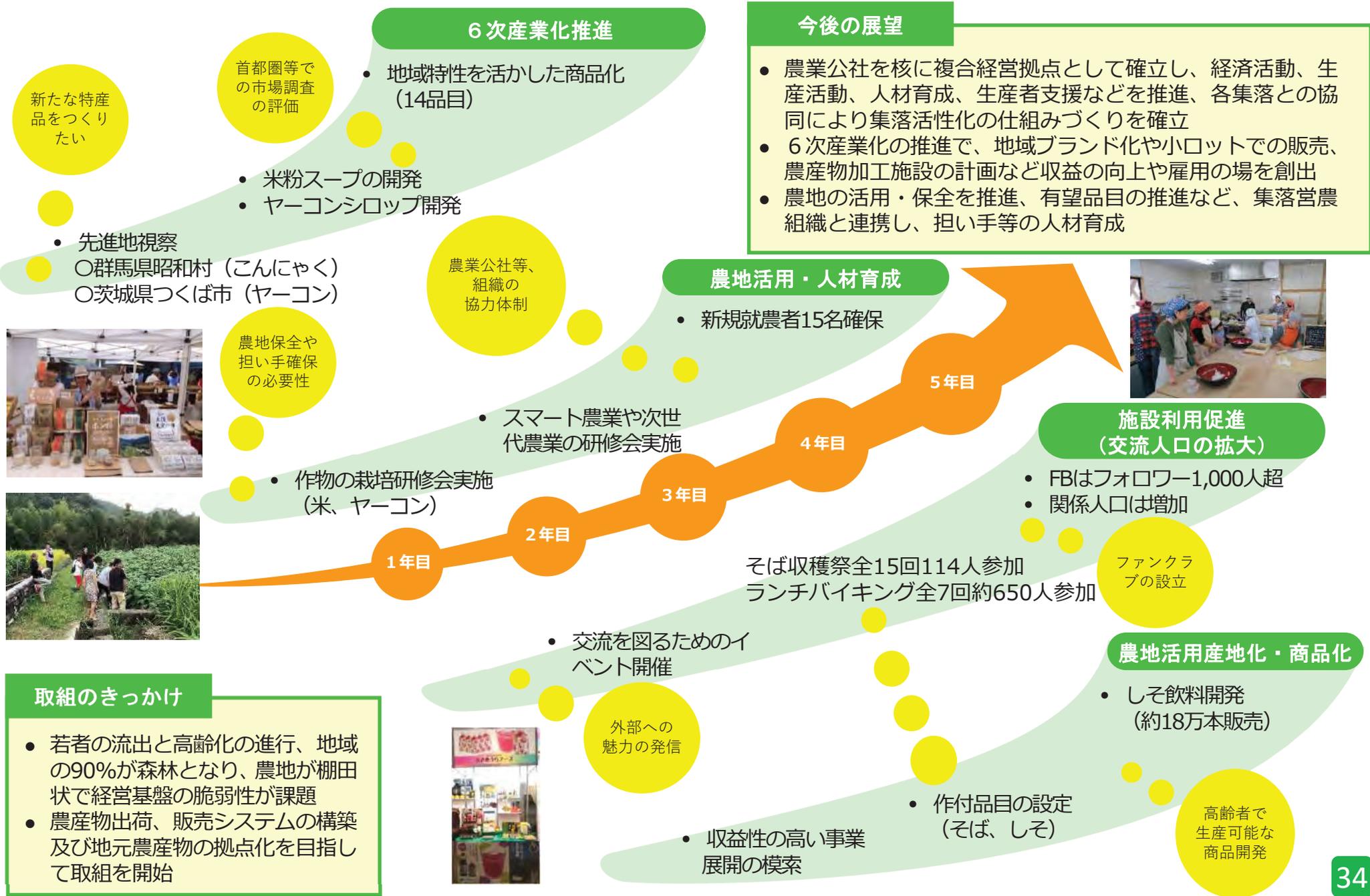
農地活用産地化・商品化

- 伝統作目のそば、有望作目のしその産地化を目指した取組を実施



- そば、しその作付増加
- しそ飲料開発（約18万本販売）

17 【取組のプロセス】





高知県三原村

取組概要

- 三原村ユズ産地化を中心とする三原村独自の農業システムを構築することで、I.Uターンによる新規就農者の確保・育成を図り、若者が定住し、子育てが可能な農業経営で地域が元気に維持できることを目指している



地域の将来像づくり（ワークショップ）

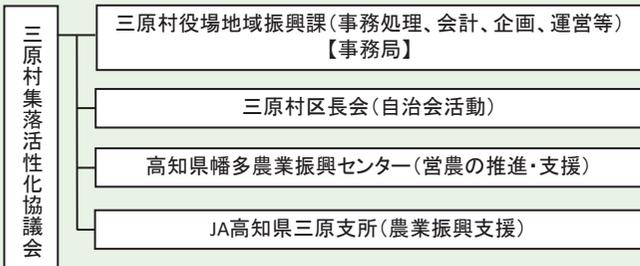


地区の現状・課題

担い手の減少と高齢化が進んでおり、また、米価の低迷により、以下の課題解決が求められている状況

- 農地や集落を維持するための担い手育成・確保
- 農業所得の向上

体制図



課題に対する主な取組

農業従事者への支援

- 農地や集落を守るため、新規就農者や高齢農業従事者への支援を実施



- 継続した農作業補助により新規就農者2名を獲得

新規実証栽培の取組

- 三原村集落活動センター特産品部会等と連携し、特産品づくりのための実証栽培を実施



- 特産品としてこんにゃくの栽培を開始（3集落60a）

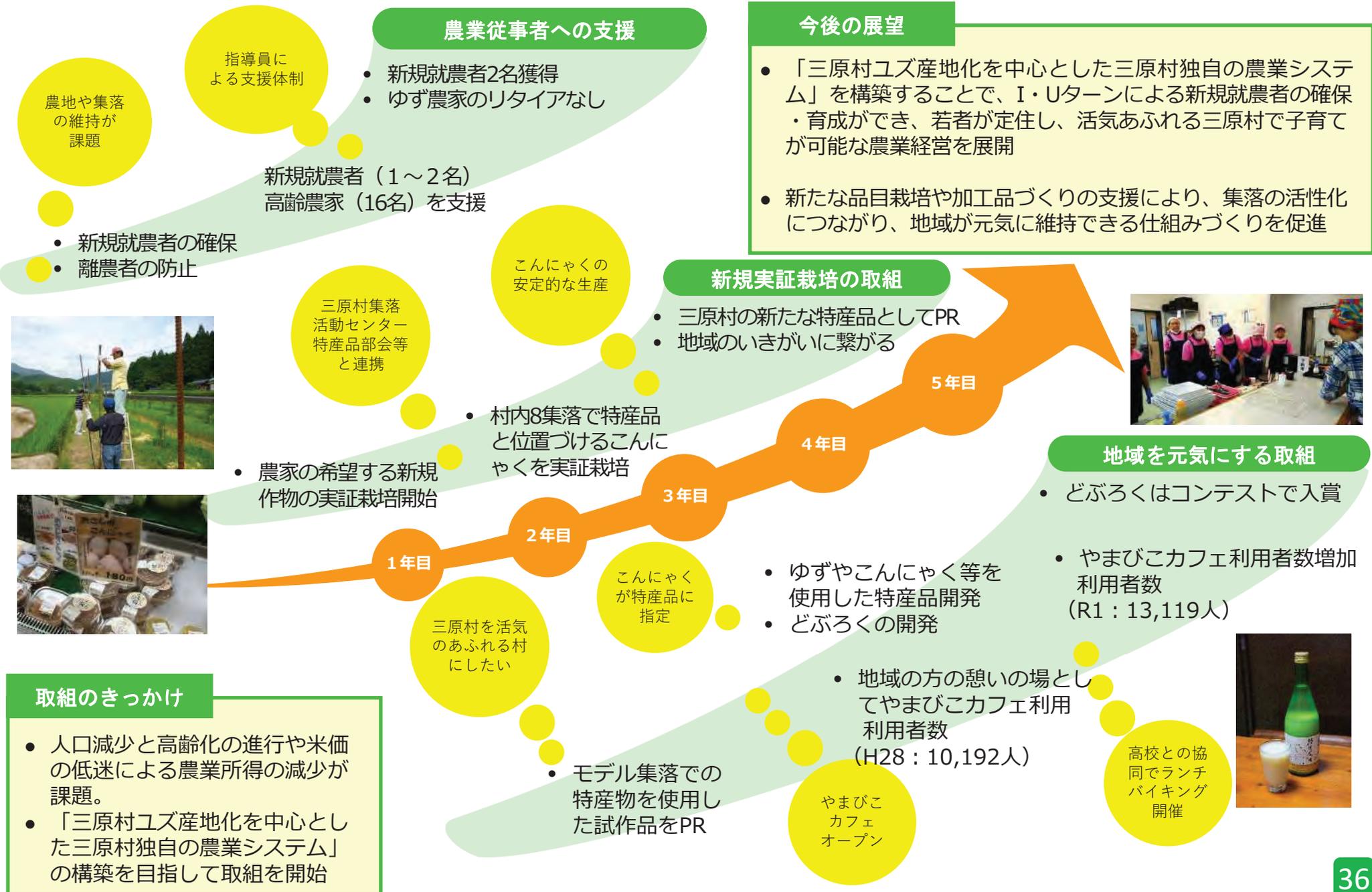
地域を元気にする取組

- 地域の特産品を新たに開発
- 地域の拠点であるやまびこカフェの運営支援
- 地域の情報発信手段を検討し、本村の魅力を外部に発信



- ゆずを使った加工品やどぶろくを製品化(コンテストで入賞)
- やまびこカフェの利用者は年々増加 (H28:10,192人 →R1:13,119人)
- 地域の情報発信手段を検討し、本村の魅力を外部に発信

18 【取組のプロセス】





取組概要

- 地域の農産品、加工品等の開発やマルシェ、展示会、地元レストラン等での販売を通して、地域のブランド化と活性化を推進している。また、米・ソバ・味噌づくり等の農業体験塾を通して都市農村交流を進め、地域活性化を図っている。



地域の将来像づくり（講演会）

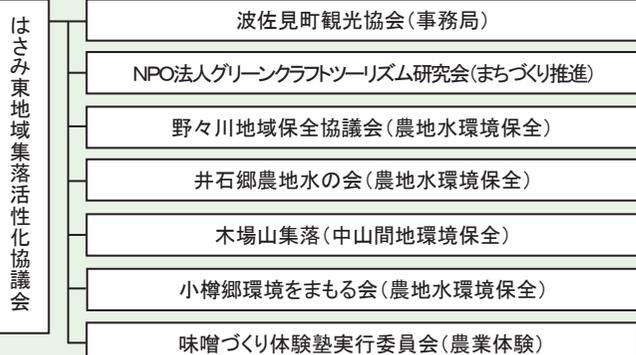


地区の現状・課題

典型的な中山間農業地域であり、高齢化とともに離農が進むとともに、地域コミュニティの維持が危ぶまれており、以下の課題解決が求められている状況

- 農業者の高齢化・後継者不足等により、廃業する農家が増加
- 地域のスーパーが撤退するなど、地域で買い物できる店がなくなり人口減少に拍車がかかりつつある

体制図



課題に対する主な取組

加工品等農産物の開発

- 米粉のパンや菓子等への活用をねらいとした試作品を開発
- 地元高校生と連携



- 地元高校生と棚田米スイーツ菓子を商品化

都市農村との交流イベント

- 地域活動支援として料理教室等の食イベントを開催



- 各種農業塾（米、そば、味噌づくり）を積極的に実施し、リピーターやファンを獲得

都市農村交流の情報発信

- ホームページを開設し、地域情報を全国発信



- そば塾・マルシェ・展示会等の各種イベントの集客増

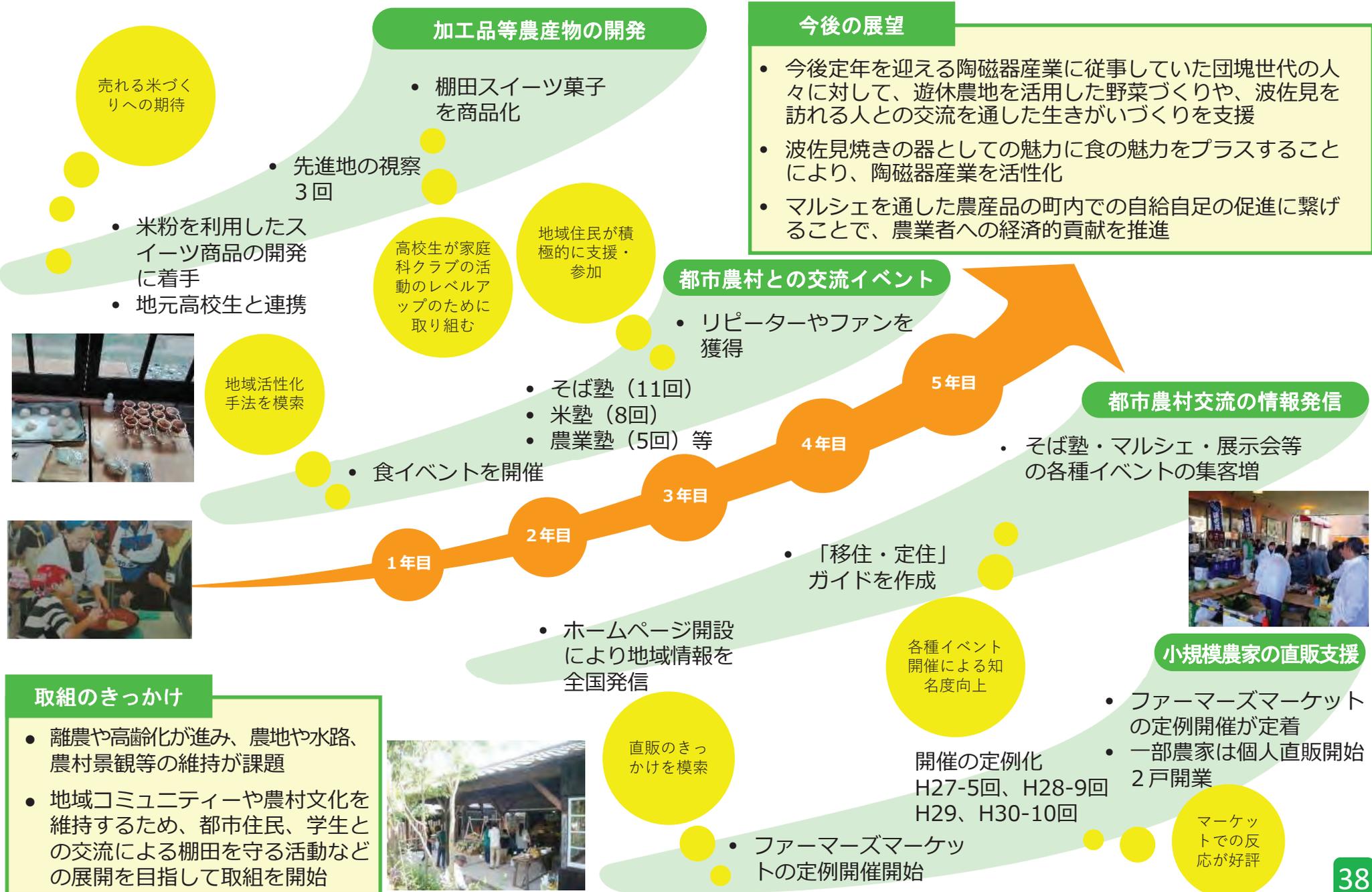
小規模農家の直販支援

- ファーマーズマーケットの定例開催を実施



- 毎月開催が定例化し、出店数は最大12戸
- 自宅庭先で販売する農家等が2戸開業

19 【取組のプロセス】





宮崎県五ヶ瀬町

取組概要

- 五ヶ瀬町の新たな魅力を発信するため、地域資源を活用した集落活性化支援事業を住民自らが考え、計画し、実行している。交流人口や収入の増加を目指し、誇りを持って集落に住み続ける人を増やす取り組みを進める。



地域の将来像づくり（ワークショップ）

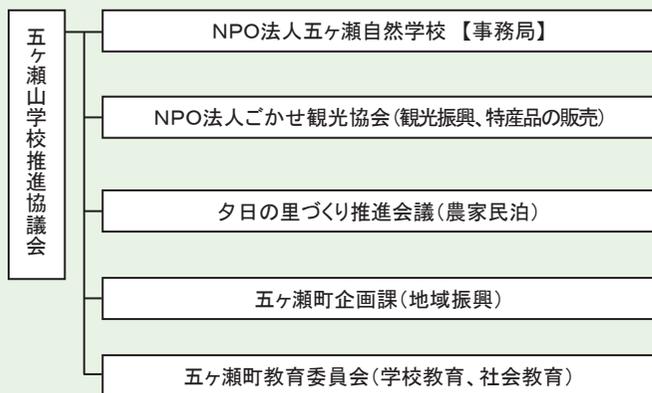


地区の現状・課題

農林業衰退、企業不足により若者が流出し、後継者不足から耕作放棄地が増加しており、以下の課題解決が求められている状況

- 若者の安定した雇用の場が不足
- 複数の農家が連携して6次産業化を目指し、少しでも多くの収入が得られるようにする
- 外部の人材が農家と交流を図りながら農作業の手伝いをする仕組みづくりを行う

体制図



課題に対する主な取組

フォレスト・アットパスの取組

- 世界農業遺産に認定されている高千穂郷・椎葉山地域等の地域の魅力を活かしたフットパスを企画



フードビジネスの推進

- お米の新ブランド開発、日本棚田100選の鳥巢棚田、日陰の棚田での農業体験イベントを実施。
- 人手が欲しい時にイベント開催。



ワーク・エクスチェンジの取組

- 大学や専門学校等と連携しながら、宿泊と食事を提供するかわりにボランティアしてもらう取組を開始。



著名人によるPR活動

- 著名人の協力を得て、お米のPR、パッケージデザイン、新ブランドの動画作成を実施



取組の効果

- 子供向け集落体験、旅行会社からの依頼、保育園の遠足など多方面で人気
- 歩きに来る方も増加（計5回232名参加）

- 健康で美味しいというコンセプトでお米をブランド化。
- 都市部や大学生との交流増加。

- 農作業、草刈り、こども教室・キャンプ等、多くの方が参加（全24回220名参加）

- 新ブランド米「左近太郎精米負け知らず」を本格的に販売

20 【取組のプロセス】

